

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月12日
【四半期会計期間】	第37期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 畠中 達郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第1四半期 連結累計期間	第37期 第1四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
営業収入 (千円)	5,755,912	11,468,479	33,770,531
経常利益 (千円)	673,246	1,469,315	3,769,181
四半期(当期)純利益 (千円)	336,245	947,520	2,205,738
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	391,002	945,147	2,330,209
純資産額 (千円)	15,914,153	18,029,138	17,215,754
総資産額 (千円)	21,280,263	27,194,361	24,791,678
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	37.97	109.75	250.16
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.8	64.3	67.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,301,051	1,765,968	628,579
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	308,146	97,764	943,037
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	158,863	135,047	800,165
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	6,373,043	8,557,297	7,024,401

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

当社グループ（当社及び当社関係会社）は、総合エンターテインメント企業である当社を中心として、当第1四半期連結累計期間に新たに設立いたしましたAMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.、Amuse Group USA, Inc.、(株)TOKYO FANTASYを加え、子会社18社及び関連会社4社により構成されることとなりました。

グループ展開により、単なるプロダクションの枠組みを超えて、グループ全体の事業の核を「コンテンツビジネス」におき、文化を創造する総合エンターテインメント集団としての企業基盤の強化を図っております。

なお、当第1四半期連結累計期間における連結子会社は、新たに設立いたしましたAMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.、Amuse Group USA, Inc.、(株)TOKYO FANTASYの3社を含め計10社となっております。

事業内容と当社グループの当該事業にかかる位置付けは、以下のとおりであります。

事業区分	主要事業	会社名
アーティストマネジメント事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント収入 （コンサート・イベント・舞台等の収入、ミュージアム・文化施設等の運営収入） ・ ファンクラブ・商品売上収入 （アーティストグッズ等の企画・制作・販売収入、音楽作品の発売による収入、ファンクラブ会費収入） ・ 出演収入・CM収入 ・ 印税収入（新譜） （初回収益計上日より1年以内分） 	当社 タイシタレーベルミュージック(株) (株)A - S k e t c h (株)アミューズエデュテインメント (株)芸神クリエイティブ (株)TOKYO FANTASY AMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd. （シンガポール） Amuse Group USA, Inc.（米国） 北京芸神演芸芸術制作有限公司（中国） Amuse Korea Inc.（韓国） 雅慕斯娛樂股份有限公司（台湾） 上海芸神貿易有限公司（中国） Amuse Hong Kong Limited（香港） 艾米斯(上海)传媒有限公司（中国） Khan Enterprise Co.,Ltd.（韓国） (株)M A S H A & R
メディアビジュアル事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像作品販売収入 ・ 映像製作収入 ・ 番組制作収入 	当社 アミューズソフトエンタテインメント(株)
コンテンツ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽・映像収入（旧譜） （音楽は初回収益計上日より1年超経過分、映像は同2年超経過分） 	当社 アミューズソフトエンタテインメント(株) タイシタレーベルミュージック(株) (株)A - S k e t c h (株)エアーズ (株)TOKYO FANTASY Kirei Inc.（米国）
その他事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンターテインメントライブ・映画・ドラマ作品等収録物の企画・制作・配給・宣伝 ・ 企業及び個人向け人材育成事業収入 ・ ベルギービール等の飲食店の展開、輸入及び卸売販売 	(株)ライブ・ビューイング・ジャパン (株)ジェイフィール ブラッセルズ(株) (株)V - S k e t c h

AMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.（シンガポール）につきましては、平成26年4月に新規設立した子会社であり、Amuse Group USA, Inc.（米国）及び(株)TOKYO FANTASYにつきましては、平成26年6月に新規設立した子会社であります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

（当第1四半期連結累計期間の経営成績）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）	増減	増減率 （％）
営業収入	5,755	11,468	5,712	99.2
営業利益	627	1,441	813	129.6
経常利益	673	1,469	796	118.2
四半期純利益	336	947	611	181.8

【経済状況】

我が国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により個人消費や住宅建設などが減速し、一部に持ち直しの動きもみられるものの、依然先行き不透明な状況であります。

【当社グループの事業概況】

当社グループの経営成績は営業収入114億6千8百万円（前年同四半期比99.2%増）、営業利益14億4千1百万円（前年同四半期比129.6%増）、経常利益14億6千9百万円（前年同四半期比118.2%増）、四半期純利益9億4千7百万円（前年同四半期比181.8%増）となり、大型コンサートの実施により会場やオンラインショップで販売するグッズ販売収入も含め好調に推移し、大幅な増収増益となりました。

<営業収入>

- ・ 当社アーティストによるイベント収入（大型コンサート）が増加
 - ・ コンサートに付随してグッズ販売収入が増加
 - ・ 当社アーティスト主演作品が好調だったことにより、DVD販売収入が増加
- 上記要因などにより、増収となりました。

<営業利益、経常利益、四半期純利益>

増収要因により増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（営業収入）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）	増減	増減率 （％）
アーティストマネジメント事業	4,727	9,575	4,847	102.5
メディアビジュアル事業	494	1,158	663	134.0
コンテンツ事業	533	734	201	37.8
合計	5,755	11,468	5,712	99.2

(セグメント利益)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	増減	増減率 (%)
アーティストマネジメント事業	814	1,397	583	71.6
メディアビジュアル事業	63	90	154	-
コンテンツ事業	131	217	85	65.2
調整額	254	264	10	-
合計	627	1,441	813	129.6

【アーティストマネジメント事業】

営業収入95億7千5百万円(前年同四半期比102.5%増)、セグメント利益13億9千7百万円(前年同四半期比71.6%増)となり、増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ イベント収入：<コンサート>
福山雅治、flumpoolのコンサートツアー
<舞台・公演>
熱海五郎一座「天然女房のスパイ大作戦」
- ・ 商品売上収入：コンサートグッズ、flumpoolのベストアルバムなど
- ・ 出演収入・CM収入：三浦春馬、福山雅治、大泉洋、Perfume、深津絵里、吉高由里子など

<営業収入>

- ・ イベント収入(大型コンサートの実施)が増加
(前年同四半期はONE OK ROCKのコンサートツアー、熱海五郎一座、黒執事などの舞台を実施)
- ・ 商品売上収入が増加
上記要因などにより大幅な増収となりました。

<セグメント利益>

増収要因により大幅な増益となりました。

【メディアビジュアル事業】

営業収入11億5千8百万円(前年同四半期比134.0%増)、セグメント利益9千万円(前年同四半期は6千3百万円のセグメント損失)となり、大幅な増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ 映像作品販売収入：福山雅治主演映画「そして父になる」、佐藤健主演映画「カノジョは嘘を愛しすぎてる」などのDVD販売

<営業収入>

- ・ 当社アーティスト主演作品が好調だったことにより、DVD販売収入が増加
(前年同四半期は「グッモーエビアン!」、「ジャッジ・ドレッド」、「スクリュー・ガールー発逆転婚!!」などを販売)
上記要因などにより大幅な増収となりました。

<セグメント利益>

増収要因により大幅な増益となりました。

【コンテンツ事業】

営業収入 7億3千4百万円（前年同四半期比37.8%増）、セグメント利益 2億1千7百万円（前年同四半期比65.2%増）となり、増収増益となりました。

【主な事業】

- ・ サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfumeなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用

<営業収入>

著作権印税の増加、PerfumeのVideo Clip集の発売などにより増収となりました。

<セグメント利益>

増収要因により増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ15億3千2百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末には85億5千7百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,301	1,765	3,067
投資活動によるキャッシュ・フロー	308	97	210
財務活動によるキャッシュ・フロー	158	135	23

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は17億6千5百万円（前年同四半期は13億1百万円の使用）となりました。

これは、主に法人税等の支払及び営業債権の増加による資金減少要因等はありませんでしたが、税金等調整前四半期純利益計上に伴う資金増加要因等が上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は9千7百万円（前年同四半期は3億8百万円の使用）となりました。

これは、主に定期預金の払戻による資金増加要因等はありませんでしたが、子会社株式の取得及び貸付けによる資金減少要因等が上回ったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億3千5百万円（前年同四半期は1億5千8百万円の使用）となりました。

これは、主に配当金の支払による資金減少要因等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,247,040
計	37,247,040

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,311,760	9,311,760	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,311,760	9,311,760	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	-	9,311,760	-	1,587,825	-	1,694,890

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 678,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,443,300	84,433	-
単元未満株式	普通株式 189,960	-	-
発行済株式総数	9,311,760	-	-
総株主の議決権	-	84,433	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アミューズ	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	678,500	-	678,500	7.29
計	-	678,500	-	678,500	7.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,049,520	11,081,828
受取手形及び営業未収入金	4,042,575	4,599,453
商品及び製品	1,297,490	1,399,154
仕掛品	1,921,201	1,890,081
貯蔵品	51,273	46,141
その他	1,396,170	1,832,676
貸倒引当金	288,321	267,642
流動資産合計	18,469,911	20,581,693
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,005,643	980,807
土地	2,047,730	2,040,998
その他(純額)	185,342	289,931
有形固定資産合計	3,238,715	3,311,737
無形固定資産	198,723	186,478
投資その他の資産		
投資有価証券	1,352,153	1,533,965
その他	1,538,270	1,586,266
貸倒引当金	6,096	5,779
投資その他の資産合計	2,884,327	3,114,452
固定資産合計	6,321,766	6,612,668
資産合計	24,791,678	27,194,361

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	5,185,239	6,840,775
未払法人税等	705,419	500,861
役員賞与引当金	25,000	-
返品調整引当金	7,400	15,100
その他	675,541	810,244
流動負債合計	6,598,600	8,166,980
固定負債		
役員退職慰労引当金	16,472	16,472
退職給付に係る負債	898,152	922,553
その他	62,697	59,216
固定負債合計	977,322	998,242
負債合計	7,575,923	9,165,223
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587,825	1,587,825
資本剰余金	1,694,890	1,694,918
利益剰余金	14,472,559	15,225,832
自己株式	924,923	925,024
株主資本合計	16,830,350	17,583,551
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,335	18,591
為替換算調整勘定	93,052	104,265
その他の包括利益累計額合計	74,716	85,673
少数株主持分	460,120	531,260
純資産合計	17,215,754	18,029,138
負債純資産合計	24,791,678	27,194,361

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業収入	5,755,912	11,468,479
営業原価	4,406,952	9,057,181
営業総利益	1,348,959	2,411,298
返品調整引当金繰入額	-	7,700
返品調整引当金戻入額	32,257	-
差引営業総利益	1,381,216	2,403,598
販売費及び一般管理費	753,545	962,544
営業利益	627,671	1,441,054
営業外収益		
受取利息	1,449	1,982
受取配当金	4,109	4,836
為替差益	10,045	15,278
受取手数料	4,051	3,990
貸倒引当金戻入額	31,523	20,745
その他	967	685
営業外収益合計	52,147	47,520
営業外費用		
持分法による投資損失	3,766	19,044
固定資産除却損	2,805	135
その他	1	78
営業外費用合計	6,572	19,258
経常利益	673,246	1,469,315
税金等調整前四半期純利益	673,246	1,469,315
法人税、住民税及び事業税	151,837	493,922
法人税等調整額	161,544	19,288
法人税等合計	313,381	513,210
少数株主損益調整前四半期純利益	359,864	956,104
少数株主利益	23,618	8,584
四半期純利益	336,245	947,520

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	359,864	956,104
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,951	255
為替換算調整勘定	24,187	11,212
その他の包括利益合計	31,138	10,957
四半期包括利益	391,002	945,147
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	367,383	936,563
少数株主に係る四半期包括利益	23,618	8,584

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	673,246	1,469,315
減価償却費	49,844	47,737
貸倒引当金の増減額(は減少)	31,523	20,996
役員賞与引当金の増減額(は減少)	37,200	25,000
返品調整引当金の増減額(は減少)	32,257	7,700
退職給付引当金の増減額(は減少)	58,016	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	24,401
受取利息及び受取配当金	5,558	6,819
持分法による投資損益(は益)	3,766	19,044
固定資産除却損	2,805	135
営業債権の増減額(は増加)	669,059	556,904
たな卸資産の増減額(は増加)	401,007	65,423
営業債務の増減額(は減少)	853,729	1,655,535
未払消費税等の増減額(は減少)	32,125	29,177
その他の流動資産の増減額(は増加)	51,634	291,405
その他の流動負債の増減額(は減少)	211,072	160,249
その他	117,070	16,700
小計	368,222	2,430,046
利息及び配当金の受取額	5,522	6,612
法人税等の支払額	941,224	692,579
法人税等の還付額	2,871	21,889
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,301,051	1,765,968
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,500,000	500,000
定期預金の払戻による収入	1,500,000	1,000,588
有形固定資産の取得による支出	12,226	149,954
無形固定資産の取得による支出	30,191	22,895
投資有価証券の取得による支出	260,000	-
子会社株式の取得による支出	-	200,459
貸付けによる支出	-	225,320
貸付金の回収による収入	716	11,055
その他	6,444	10,779
投資活動によるキャッシュ・フロー	308,146	97,764
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	2,413	209
自己株式の売却による収入	-	137
少数株主からの払込みによる収入	-	73,500
配当金の支払額	134,142	195,168
少数株主への配当金の支払額	19,530	10,944
その他	2,776	2,362
財務活動によるキャッシュ・フロー	158,863	135,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,768	260
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,753,292	1,532,896
現金及び現金同等物の期首残高	8,126,336	7,024,401
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,373,043	8,557,297

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、AMUSE ENTERTAINMENT SINGAPORE Pte.Ltd.、Amuse Group USA, Inc.及び(株)TOKYO FANTASYの3社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
現金及び預金勘定	8,895,415千円	11,081,828千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2,522,371	2,524,530
現金及び現金同等物	6,373,043	8,557,297

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月23日 定時株主総会	普通株式	132,830	15.0	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月22日 定時株主総会	普通株式	194,247	22.5	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内訳 普通配当 15.0円 記念配当 7.5円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	4,727,869	494,988	533,054	5,755,912	-	5,755,912
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	15,772	54,367	28,734	98,874	98,874	-
計	4,743,641	549,355	561,789	5,854,786	98,874	5,755,912
セグメント利益 又は損失()	814,330	63,581	131,721	882,470	254,798	627,671

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 254,798千円には、セグメント間取引消去821千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 255,620千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	9,575,820	1,158,068	734,589	11,468,479	-	11,468,479
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	31,440	80,462	28,624	140,527	140,527	-
計	9,607,261	1,238,531	763,214	11,609,006	140,527	11,468,479
セグメント利益	1,397,654	90,744	217,575	1,705,973	264,919	1,441,054

(注)1. セグメント利益の調整額 264,919千円には、セグメント間取引消去2,995千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 267,915千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	37円97銭	109円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	336,245	947,520
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	336,245	947,520
普通株式の期中平均株式数(株)	8,854,632	8,633,212

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月12日

株式会社アミューズ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 百井 俊次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。